



第98回

## 私のスケッチブック

### 「パサージュのプチホテル・ショパン」

パサージュ・ジュフロワ/パリ（フランス）



凍てつく寒さのドイツから逃れるようにパリを訪れます。帰国前のひと時、真冬の寒さの中でも楽しく買い物や食事を取るのに最適なのはパサージュで、屋根付きですから雨も寒さもヘッチャラです。

18～19世紀に、いわゆるアーケード街として建てられました。今でもパリ市内に10数カ所が存在して、観光客やパリジャン・パリジェンヌの憩いの場所としてのおのが個性的な雰囲気を楽しませてくれます。このスケッチはパサージュ・ジュフロワでオペラ座からグラン・グルーバルを散歩がてらに15分程度の距離に在り、小規模ながら大変人気の高いパサージュです。

ガラス天井と光が降り注ぐ明るい雰囲気は、訪れる人々を優しく迎え入れてくれます。何しろ通り沿いのお店はバラエティーに富んでいますから古い商店街と云うより、お洒落でロマンティックな時間を過ごすには格好の場所です。私のお奨めのサロン・ド・テは、

ル・ヴァランタン (Le Valentin)。このCaféの看板は、以前に作品としてCalendarに掲載させて頂きました。アンリ4世が大好きだったレシピで作るコンフィチュールが自慢で、アルザス・ローレーヌ地方のお菓子やクッキーも楽しめます。

もうひとつ紹介したいのがホテル・ショパンです。何故ショパンの名前を冠したホテルが有るかと言うと、このパサージュの斜め向かいに住居跡が有ったからだと言われています。私にとってのショパンは、戦後のモノのない時代に音楽と云えば古いオルゴールの音色しか無かった時代に、「乙女の祈り」「エリーゼの為に」「仔犬のワルツ」が定番で、ベートーベンとショパンの名前は知っていました。そして、このホテルは絵の題材としては最高！じっくりと時間を掛けて描きたいのですが、人前で堂々と描けませんからそっと描いて諦めます。

延原 慎吾



1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。  
2018年開催「第69回 全国カレンダー展」に10度目の入選を果たし、その実力を発揮する。  
<http://www.urban.jp/home/nobu36>

水彩画 延原

検索